

令和5年度第5回一関市協働推進会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第5回一関市協働推進会議
- 2 開催日時 令和6年3月8日（金） 午後2時から午後3時44分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 千葉真美子委員（副会長）、小笠原あい委員、小野寺浩樹委員、小原雪男委員、小山賢一委員、菅原幸子委員、千葉昭博委員、星義弘委員
 - ※欠席委員 小野寺健委員（会長）、太田真希子委員、金野陸夫委員、佐々木承子委員、佐山克子委員、千葉理恵委員、三浦幹夫委員、村田宰委員
 - (2) 事務局 小野寺愛人まちづくり推進部長、後藤治まちづくり推進課長、山崎政義まちづくり推進課長補佐兼まちづくり企画係長、須藤直子まちづくり推進課主査
佐藤奈津子花泉支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、佐藤美紀大東支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、鎌田健治千厩支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、小崎ひろえ東山支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、佐藤俊之室根支所地域振興課地域協働係長、吉川勝哉川崎支所地域振興課会計年度任用職員、小野寺嘉奈藤沢支所地域振興課地域協働係長

5 議 題

- (1) 第3次一関市協働推進計画（案）について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 0人
- 8 千葉真美子副会長挨拶

本日はお忙しいところ、第5回一関市協働推進会議にお集まりいただきありがとうございます。

会長不在ということで、代わりに挨拶をさせていただきます。

世間では、有名人のおめでたい話も出ており、私にも何かいいことがあるのではないかなと思っていたところ、この代役が回ってきましたので、いいことだと思って頑張らせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

9 審議事項

(1) 第3次一関市協働基本計画（案）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 6ページ、7ページのグラフの番号が下から付番されているので、上からのほうがよいと思う。

事務局 ご指摘のとおり、修正する。

委員 資料の第3次一関市協働推進計画（案）に対する意見の概要及び意見に対する考え方の5ページに、計画の第4章の3のSDGsと本計画の関連性について意見があるが、あえて追加する分野を限定する必要があるのかなと思う。SDGsは、基本的に一関の協働より後に国連が言ってきた考え方であって、SDGsの理念に基づくもので、我々の地域づくりは、全部を網羅していると思っているので、あえて載せるのであれば、1の貧困をなくそう、8の働きがいも経済成長も、ではなく全部載せてもいいと思っている。

基本的にSDGsは持続可能な社会をというところで、それを世界ではなく小さな一関市に置き換え、持続可能な一関市と考えていくと全部該当するというところでいいのではないかと思う。

例えば1番の貧困をなくそうでいうと、今、隠れ貧困があり、貧困をなくしていくためにどうするかというところ、自治会や民生委員や保育園の保育士さんたちと協働しながら、その隠れ貧困をどう助けていくかというところが協働する姿だろうと思う。

8番の働きがいも経済成長もについては、これは産業分野との協働になり、技術革新が進んでいるDXをどう進めていくか、行政だけのDXでは難しいので、ここは、民間のデジタルの力を借りるところで協働する。そうするとDXに関しての働きがいや経済成長に繋がっていくので、あえて限定せずにSDGs全部の表を入れてもいいのではないか。

総合計画も全部入っているのではないか。

事務局 総合計画には全部入っていて、この事業には主にこの分野が該当するとなっている。

委員 現在作成している協働推進計画は、地域協働推進計画ではなくオール協働なので、地域の分野ではなく、すべての分野の協働を推進する計画。

よって、総合計画と同等の扱いにしてもよいのではないか。

委員 この5つだけを抜き出してしまうと少し違和感があるが、言わんとしていること自体は、やはり協働という手法を使っていけないと貧困もなくせないし、教育の豊かさもないというところが根幹にあるので、全部入れてもいいと思う。

事務局 いろいろな分野でいろいろなことに関連してくる協働なので、SDGsの理念を協働の取組に繋げていくものと考えれば、この5つを意識するだけではなく全体を意識するとしたほうがよいと思うので、修正について検討させていただく。

委員 総合計画の文章に倣ってよいのではないか。それを協働という手法を用いて取り組むということになればよいと思う。先ほどの一ノ関駅東口工場跡地のことだが、協働推進会議は、協働について意見交換をする場だが、例えば一ノ関駅東口工場跡地に関しては、昨年3回市民ワークショップをやっている。市民ワークショップをやっているということはそこで一つの話合いの協働の場面が設けられているので、協働推進会議の中で、話合いの協働がどういうところで今やっているのかが報告されると、委員さんたちは一ノ関駅東口工場跡地に関してもちゃんと市民協働でワークショップをやっているんだなと分かるのではないかと思う。

 次回の協働推進会議では、今までの実績が上がってくると思うが、その辺の工夫をしていただくと、よりこういうリクエストに応えていけるのかなと思う。

委員 1名の方からパブリックコメントがあったということで、良かったと思う。

委員 計画案の1ページの下から3行目、第2次「一関市協働基本計画」の部分だが、第2次が鉤括弧の外にあるが、次の行の「第3次一関市協働推進計画」は第3次が鉤括弧の中にある。

 それから、5ページの主な経過だが、令和4年度に地域協働体活動費補助金を廃止し、令和5年度から地域づくり交付金が創設されたという表現だが、補助金の制度が廃止されたのは令和5年度で、それが交付金に切り替わったと認識をしているが、この書き方だと令和4年度はもう廃止されたということになってしまうので、書き方を見直した方がよい。

事務局 記載内容について見直したい。

委員 上記のように括弧書きで、令和5年3月31日廃止と記載してはどうか。

委員 10ページの下から4行目だが、下から5行目から読んでいくと、長期間役員を引き受けざるを得ない、事務局や役員の負担が重いとの意見が出るなど、地域の人材育成が課題となっていますとあるが、引き受けざるを得ないとの声や、とした方がよいと思う。あと15ページのイメージ図の中に、行財政とあるが、財政難ということか。

地域と行政の環境変化と基礎的コミュニティの弱体化というのは、見出しにはなっているが、行財政については、何を指しているのかわからなかった。

25 ページの指標だが、その中でチーム会議という表現がいきなり出てくる。チーム会議は、用語の定義にも出てこないし、おそらく一般の方は何かわからないと思うので、チーム会議の開催数を指標とするのであれば、説明書きが必要だと思う。

事務局 検討させていただく。

委員 9 ページの(3)地域の特性を活かした取組の推進を読んでいると、4 ページと同じ内容の記載があるが、同じ内容でよいのか。

事務局 最初の4 ページは全体的な経過であり、9 ページは項目の具体的な内容を記載したため、同じ表現になった。

内容については、検討する。

委員 指標として出てくるチーム会議だが、地域協働体においてチーム会議を行っている。地域協働体の運営に対して、市の担当者が2か月に1回など定期的開催し、今の進捗状況や、悩みを聞いたり、行政からの連絡をしたり、お互いに相談するなどケアし合う場を設けている。

これは一関市の協働を進めていく中では、ぶれないやり方だと思っていて、市がチーム会議をやると位置づけていること自体がすごく貴重だと思う。これは地域協働体だけではなくて、福祉の分野や産業の分野など、一関市の施策全体に協働を進めていくためにチーム会議の設置が展開されていくと、協働は進んでいくのではないかと思う。協働はまちづくり推進部だけがするもの、地域協働体ができるものだという意識が未だに強い。

スポーツの分野も、一関市体育協会の指定管理にあたってチーム会議のようなことをやっているのか。

事務局 月例で実施している。

委員 ある意味それがチーム会議なので、一関の協働を進めていく上で、様々な分野の委託、受託の関係ではなく、市の施策を達成するために、行政と関係者が一緒になって議論するという状況を作ることが大事だと思っている。

副会長 チーム会議は、令和4年度に125回も開催しているので、やっぱりこの計画にチーム会議をやっていることを入れた方がいいと思う。

委員 一関文化センターや体育施設など多くの施設が指定管理になっているが、行政と市民が一緒になって目的を達成することが最終地点なので、契約しただけ

ではなく、2か月に1回チーム会議を開催し、進捗確認などを丁寧にやることが大切ではないか。

藤沢で実施しているチーム会議は、理事会の前にチーム会議を開催し、理事会での合意形成をしっかりとっているところは本当に素晴らしい協働ができていると思う。

委員 この計画の中のチーム会議だが、私達はわかるが、広く市民の方々に向けて、もう少し丁寧に、明記したほうがよい。

文章は長くなるが、わかってもらおうとするのであれば、手間はかかるが、用語の説明で1ページ作って、チーム会議とはこういうものだと記載したほうがよい。

私の地域のチーム会議は、理事会に諮る部分を、市の職員とお互いにお金の使い方や、事業の内容などの確認する。理事会には市役所の課長も出席し、地域協働体の悩みなどの話をし、市からは対応の可否について回答をいただく。

一つの例としては、道路の支障木の問題や危険な箇所について各自治会から報告してもらい、それについて支所の産業建設課の担当係長もチーム会議に入り、方針をチーム会議で説明し、それを理事会で報告する。計画や予算の関係に伴う実施の可否を理解してもらいながらチーム会議を開催している。

委員 行政と地域の協働は、お互いに納得することであり、短期間で状況が変わるので、そこを確認しながら、アドバイスや持ち帰っての検討など細目なやり取りをすることで、課題解決の近道になっていくので協働という手法が必要だと説明ができる。しかし、それがなくて、ただお願いしています、が協働かと言われると、それは一関市が取り組む協働ではないと、やはり言わなくてはいけない。

委員 一関市社会福祉協議会からは、福祉コーディネーターがチーム会議に出席している。福祉の問題がいろいろな部分で出てくるので、福祉コーディネーターに出席してもらい情報提供してもらっている。また、いちのせき市民活動センターにも出席してもらい、いろいろとアドバイスをもらっている。やはり、それぞれがやるのではなく、一緒にやっという気構えが出てくると感じている。

副会長 円卓会議は、市民組織と企業、行政などが話し合う場であり、チーム会議は、地域協働体と行政などによる会議となっているが、そういう理解でよろしいか。

委員 チーム会議は、わかりやすく言うと事務局会議みたいなもの。円卓会議はもっと広くて、例えば保育園の行事について考える時、地域協働体の関係者や保育

園関係者、保護者というように広がって会議をするのが円卓会議で、チーム会議は事務局会議のようなものなので、会長、副会長、事務局、行政担当者、市民活動センター、福祉コーディネーターなどが入り、小さいサイズで現場の確認をしたりし、軌道修正をしていく。細かく軌道修正した方がお金の使い方は失敗しないし、事業の無駄にもならないし、時間の無駄にもならない。

副会長 用語の説明のところに、円卓会議が入っているが、同じようにチーム会議を入れて違いがわかるように表記したほうがよい。やっている方も、会議のイメージをお話しできると思う。一般の人がこれを見たときに、チーム会議と円卓会議の違いをしっかりと示さないと、わからないと思う。

最終的にその指標にチーム会議の開催数を入れるのであれば、やはりチーム会議の説明が欲しいし、文章の中に会議をしながら、協働をより良くするなどを入れる必要があると思う。

委員 円卓会議という大きい会議をする前に開催するのがチーム会議。次の円卓会議のテーマについてチーム会議で議論し、どういう順番で話していこうか、どのような話題を提供するかなど、いわゆる準備会議のようなものである。

そして円卓会議を開催すると、無駄な会議ではなく、充実した会議になる。

副会長 そのような意見があったので、盛り込んでいただきたい。

事務局 チーム会議を用語の説明に加える。

委員 他の自治体の協働の状況を見ると、一関市のようなチーム会議を開催しているところはなく、一関市の地域協働体の中でのチーム会議というのはすごく売りで、よその自治体では難しいようで、職務の中で時間を割いてチーム会議ができてるのは、すごく珍しいと言われている。

副会長 そういうところに力を入れているところは、自信をもって活動ができていると思うので、ぜひチーム会議という文言を入れていただくようお願いする。

委員 広い協働でいくと、他の分野、例えば子育て支援の中にもチーム会議があってもいいと思う。

委員 6ページだが、7番がグラフと表で書いてある内容が異なっている。

また、7ページの2番の文字が切れている。

事務局 修正する。

委員 22ページの指標に、地域協働体の活動件数とあるが活動件数とはどういう活動のことをいうのか。

事務局 活動件数については、一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの指標としており、毎年報告いただいているもので、会議などを除いて、各地域協働体で取り組んだ事業件数である。

委員 最近では、市民センター事業の件数と協働体の事業の件数が混ざっているところもあって、少し整理していかないといけない。また、市民センターによっては協働体と全て共催でやっているところもある。

事務局 本計画に資料編があるが、本日お示しできない。内容は、前回の第2次地域協働推進計画の資料編と同じ構成である。資料1は、地域協働体の設立状況、資料2は住民懇談会の開催状況と住民懇談会での主な意見、計画策定の経緯を掲載する予定。

最後のページに協働推進会議の委員名簿を掲載させていただくので、ご了承ください。

副会長 3の第3次一関市協働推進計画（案）についての意見等交換を終了する。

その他に移るが、委員の皆様から何かございませんか。

委員 今回、第3次協働推進計画の策定の議論をしてきたが、1年間の議論を通して地域協働体の成熟度について聞きたい。

委員 地域協働体の難しいところは、役員が変わるため、事務局任せや会長任せになっているところ。

地域協働体の本体である協議会は、そういう状態であることは否めないが、進めたいのはその下にある自治会の強化であり、そこが強くなればよいと思う。やはり地域のことを一番知っているのは地域なので、やはりそこを強くしたいというのが私の考え。

次の世代に残していくときに、支えるのは地域協働体なので、その下の地区や自治会がどうあるべきかというのをみんなで考えて一緒にやることで意識が高まるのではないかと考える。

委員 私が属している地域協働体は、成熟度という意味では小学校一年生から二年生ぐらいの感じ。地域には三つの地域協働体あり、その中で少しずつ足並みを揃えながら、支所の方々と一緒に物事に取り組んでおり、足並みを揃えるというところは忘れないようにしている。

また、行政もお互い歩み寄って、寄り添っていただいているように感じるので、一歩ずつだが協働の考え方に近いものになりつつあると感じている。

委員 市民センターの指定管理を受けたことによって、正直言うとまちづくり協議会の活動が弱くなり、市民センターの事業が中心になっているという印象がある。

まちづくり協議会は事業しない団体なので、話し合いを中心にやっているが、話し合いが正直少なくなっている。

委員 住民に一番近いのは自治会なので、その自治会の集まりのまちづくり協議会であれば、もっと進むのかなと感じる。組織の改編が必要と思っている。

委員 理事の人数を見直したり、組織を見直したりしながら、どうやって進めていくかを考えながらやっていくしかないと考えている。

委員 地域協働体と行政との意見交換はチーム会議でできているが、地区が地域にいっぱいあって、それぞれの課題も違うので、地域との意見交換もしていかななくてはいけないと感じている。各専門部会は、事業の実施で、達成率は高いが、その仕組み作りという部分では、現在、再来年からの地域づくり計画を作成中だが、事業をやるだけの部会ではなく、円卓会議というのを大事にして、地域の課題を解決できる仕組みを作っていきたいと考えている。

委員 地域協働体は疲れるから事業を持たない方がよい。お金をもらうから事業をやることになるので悪循環だと考えている。各地域が強くなるのは良いが、地域協働体は強くなるのではなく調整役になればよい。各地区が強くなればよく、地域協働体は各地区が困っているときに支援し、いちのせき市民活動センターがサポートする形がよい。事業を持つのはあまり良いとは思わない。

市民センターの指定管理を受けたとき、その事業をメインにしながら、生涯学習などをやって人づくりをした方がいいのではないかと思う。

委員 評価指標に地域協働体の活動数とあるので事業をやらなければならない。

委員 活動はその地域がどんな地域になったのかが大切であり、それは市が求める地域協働体ではないと考える。

そこに住む人たちが、地域協働体ということ言葉を言葉にしなくても、自治会でやってもらっているなど少しでも感じてくれたら安心してここで住めるのかなと思う。いろいろな問題があっても、それを行政が反映してくれると思えば、私はそれが一番の活動ではないかと考える。さきほど言った協働とは、行政と住民が一緒になってやろうという市民の声の代弁者は地域協働体だと思う。

副会長 私は地域協働体には入っていないのでよくわからないが、頑張ってもらってらっしゃるなっていうのをすごく感じて、いろいろな地区のいろいろなやり方をお伺いし

ながら、より良いものにできるその機会というのがこういう会議であっていいのではないかと思っており、今日お話を聞いてすごく良かったなと思っている。

委員 地域協働体のメンバーだけで話をするから狭い世界での話になるので、そこに他の分野から入ってもらうことによって、話が広がり課題解決の糸口が見えてくる。

地域の課題解決をどうしていくかというときに課題がないと議論できないので課題を探さなければいけないが、課題を探さないで何をやりますか、から始まるので事業を作ってしまう。

事務局職員や役員さんは、地域を見渡さなければいけないし、地域が今どうなってるかを感じなくてはいけない。

10 担当課 まちづくり推進部まちづくり推進課